

氏名	瀧田浩平	部署	看護学科	職名	助教
研究分野	小児看護学				
学位	修士(看護学)				
学歴	2007年秋田大学医学部保健学科看護学専攻、2014年東京慈恵会医科大学大学院医学研究科看護学専攻				
経歴	2014年東京慈恵会医科大学医学部看護学科助教、2019年埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科助教				
所属学会(役職)	日本小児看護学会、日本看護科学学会、日本育療学会、日本看護倫理学会、SPU学会				

【2022年度実績】

1. 研究業績							
(1) 著作							
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月	
1	看護実践のための根拠がわかる 小児看護技術 第3版	共著	あり	メヂカルフレンド社、444 頁	編著：添田啓子・鈴木千衣・三宅 玉恵・田村佳士枝 執筆：瀧田浩平、他多数	2022.12	
(2) 論文							
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	義眼を装用する網膜芽細胞腫の幼児における 就園時期から園生活における母親の困難感	共著	あり		小児保健研究, 82 (1), 31~41	永吉美智枝、東樹京子、高橋衣、 瀧田浩平、秋山政晴、柳澤隆昭	2023.1
(3) 学会発表							
	学会発表の演題	単・共		学会名、開催都市	発表者(発表者は○印)	発表等年月	
1	網膜芽細胞腫の幼児の就園時期から園生活 における義眼に関する母親の困難感	共同		第69回日本小児保健協会学 術集会、三重県	○永吉美智枝、東樹京子、秋山政晴、柳澤 隆昭、瀧田浩平、高橋衣	2022.6	
2	義眼を装用した網膜芽細胞腫の幼児の園生 活に関わる園への説明の様相	共同		第64回日本小児血液・がん 学会学術集会、東京	○永吉美智枝、東樹京子、秋山政晴、柳澤 隆昭、瀧田浩平、高橋衣	2022.11	
3	THE TIMING WHEN THE MOTHER OF A CHILD UNDERGOING EYE ENUCLEATION DUE TO RETINOBLASTOMA STARTS MIGRATING SELF-CARE OF ARTIFICIAL EYE TO CHILD	共同		the 54th Congress of the International Society of Paediatric Oncology (SIOP 2022),Barcelona, Spain	○Michie Nagayoshi, Kyoko Toju, Kinu Takahashi, Kohei Takita, Masaharu Akiyama,Takaaki Yanagisawa, Hiromi Tamura, Miyuki Sato, Ayumi Ando	2022.9	
4	ACTUAL STATUS OF SELF-CARE ON ARTIFICIAL EYE IN CHILDHOOD AFTER ENUCLEATION DUE TO RETINOBLASTOMA	共同		the 54th Congress of the International Society of Paediatric Oncology (SIOP 2022),Barcelona, Spain	○Michie Nagayoshi, Kyoko Toju, Kinu Takahashi, Kohei Takita, Masaharu Akiyama,Takaaki Yanagisawa, Hiromi Tamura, Miyuki Sato, Ayumi Ando	2022.9	
(4) その他							
	名称	単・共		発表場所等	発表者(発表者は○印)	発表等年月	
1	該当なし						
2. 競争的資金等の研究							
	競争的資金等の名称			研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間	
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補 助金(基盤研究C)			網膜芽細胞腫をもつ乳幼児の発達 促進のための長期フォローアップ 体制の基盤構築	研究分担者	2017~2022	
2	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補 助金(基盤研究C)			看護師を対象とした子どもの権利 擁護実践を高める教育プログラム (中級編)の開発	研究分担者	2021~2023	
3. 教育業績							
(1) 講義							
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要(教育内容・方法等において工夫した点)			
1	子どもの保健		1	「子どもの救急処置および蘇生法の特徴と実際.AED等の機器の実際」に ついて講義を行った。演習ではロールプレイを行い技術を実践のイメー ジに繋がるよう工夫した。			

2	子どもと家族のヘルスプロモーション	○	1	子どもと家族のヘルスプロモーションのヘルスプロモーションとはという科目の導入について講義を行った。看護実践をヘルスプロモーションの視点で検討できるよう説明を工夫した。
3	小児看護学Ⅱ		1	「障がいをもつ子どもと家族の看護」について講義を行った。講義に集中し関心を向けられるよう、講義内で学生に考えさせる問いや動画などを取り入れた。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	小児看護学Ⅳ		10	技術演習と事例を関連させて考えさせることで単なる技術の学習ではなく看護のとして学ぶことが出来るよう工夫した。
2	子どもと家族のヘルスプロモーション	○	8	インタビューした内容が、ヘルスプロモーションの学びとして高められるようグループワークでファシリテートした。
3	子どもの保健		4	子どものイメージをなるべく具体的に学べるようDVDなどの視聴覚教材を使用し工夫した。
4	小児看護学Ⅲ		14	PBLでの学びとして、学生主体に疑問をもち気づきを促し、お互いが学びあえるようグループワークでファシリテートした。
5	小児看護Ⅰ		7	グループワークのなかで学生の気づきを促し、学びを共有できるようファシリテートした。
6	ヒューマンケア論		8	オムニバス形式の講義をサポートした。講義の司会を行い円滑に講義が行われるよう進化した。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	小児看護学実習		2022.10～2022.12	病棟での見学実習にて学生の学びが促されるよう、スタッフとの調整や見学場面の気づきに意味付けやケアの振り返りを行った。見学した内容をイメージとして紙上事例の看護を具体的に展開できるようサポートした。
2	総合実習		2022.7～2022.8	病棟での見学事例の情報から読み取れる子どもの特徴をより具体的なイメージとして学び取り、看護を計画し実践をイメージできるようOSCEなど工夫した。学生の目標を学生と共に段階に分けて評価振り返りすることで、自身の看護や学びを評価修正する機会を多く設けるようした。
3	IPW実習		2022.10～2022.10	対象者や施設ファシリテーターとのやり取りから学生が対象を包括的な理解へとつながるよう、グループワークでは学生の専門性を活かし自身の気づきを促すファシリテートをした。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2022.4～2023.1	主指導 2名	副指導 名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	該当なし			
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	小児の健康状態に応じた看護	慈恵第三看護専門学校	「救急処置を要する児への看護」「手術を受ける小児と家族の看護」	2022.12、 2023.1
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称		任期
1	該当なし			
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	地域貢献活動	県立小児医療センター	看護師への研究指導	2021.4～2023.3

5. 学内運営			
	項目	内容	期間
1	学科等における委員会等	SPU学会 会計委員	2021.4~2023.3
2	学生支援	3年生担任	2022.4~2023.3
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
1	2022年度研究奨励賞	日本小児看護学会	2022.12
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
1	該当なし		